

地域で支え合える小さな場所作りの大切さ

小学校校区にミニデイサービスセンターを

◆当センターのボランティア活動◆

「ミニデイサービス・まごころ」来春開所予定

十月から月一回試験的にスタート

在宅福祉サービスの一環として

かねてより一人暮らしの方や痴呆を抱えられたご本人と家族、又高齢者のご夫婦、車椅子の方々など、お年寄りが家から離れてみんなでふれあえる、安心して楽しい場所作りを考えて来ました。

りました。趣旨に賛同下さいました保育園のご理解で遊戯室をお借り出来、周りには小さな子供達が一緒に

◆小回りのきくミニデイサービス

◆昼食の支度はみんな

材料を切る人、味付けをする人、盛り付ける人、そ

れを眺める人、匂いをかきながら一緒に食事を作りま

準備も少しずつ進み、この程このミニデイサービスが来春頃から実施の予定となりました。それに先立ち、本年十月から来年三月頃まで試験的に月一回のミニデイサービスを始めることになりました。

◆保育園の遊戯室

また、お年寄りがお年寄りだけ集うのではなく、みんなの中でと希望してお

第一回は 平成七年十月十九日(木)午前十時～午後三時三十分

大和町の研修南保育園 遊戯室

◆お問い合わせは...まごころサービス尾張センターまで
お気軽にお立ち寄り下さい。

多数のご参加をお待ちしています!

記録映画と講演の集い

日時・・・平成7年9月8日(金)午後1時～3時30分
場所・・・一宮スポーツ文化センター 3階小ホール
内容・・・
ドキュメンタリー映画「おてんとうさまがほしい」
講演 演題「老いを考える」
講師 石原美智子氏
(特別養老ホーム「サソビレッジ新生苑」理事長)

参加費・・・700円
主催・・・尾張地域福祉を考える会・まごころサービス尾張センター
後援・・・一宮市社会福祉協議会
◆講演終了後会場にてお菓子など手作り品のバザーを行います

痴ほう予防地域ぐるみで

小規模地域社会の支援システム強化 厚生省方針

去る8月26日付け朝日新聞によれば、厚生省は急速に増加する痴呆性老人や家族を支える為に小さな地域社会(小学校区・自治会レベル)で継続的に支える形を作りたいとし、虚弱な一人暮らし老人の支援や痴呆にさしかかる段階からの支援システムを充実させる事を決めた、と報じています。尚、支援システムにかかわる団体やボランティアには助成する方針としています。来年度から全国33カ所でモデル事業を始めるようです。

このことは、私達が始めようとしているミニデイサービスと同じ内容の支援だと思う。国も動き出しています。私達も頑張ってミニデイサービスを充実させていきたいものです。

ケア情報生口

入院をされておられるXさん。今、いつでも退院出来る状態に落ち着かれておられます。

でも、家に戻られてもお一人では何も出来ないとのことでした。ご家族はお仕事で昼間は一人が多い方です。ご家族とローテーションを組み、まごころサービスの訪問が週5日2時間程度と決まり、Xさんの退院日が決まりました。

とき・・・九月五日(火) 十時～十六時
九月七日(木) 十時～十六時

まごころサービス尾張センター 調理室



7月会員登録状況

協力会員	41人
利用会員	36人
賛助会員	106人
計	183人

7月活動状況

活動件数	13件
活動人数	20人
活動時間	253.5時間